

Hyper Sketches／田中智之が描く建築・都市空間展

環境システム工学科 田中智之

1. 展示概要

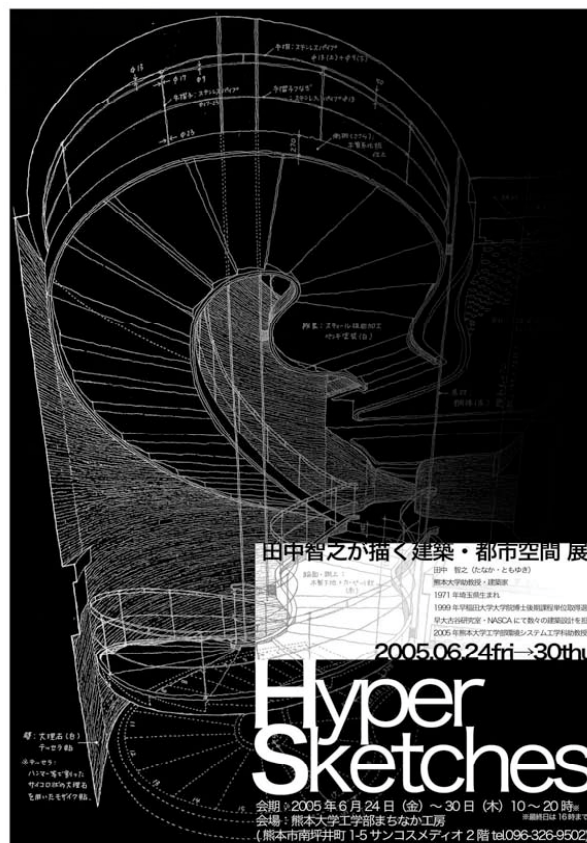
平成17年6月24日～30日の7日間、工学部まちなか工房にて「Hyper Sketches／田中智之が描く建築・都市空間展」と題した展示を開催した。

展示は工房壁面を利用し、14点のドローイング、1点の模型、3点の拡大ドローイングを配置した。14点の描画対象は、設計競技のプレゼンテーションに使用した透視図をはじめ、建築家の階段に関する雑誌連載に用いた図版、実作である住宅の透視図およびダイアグラム、都市の俯瞰図など多岐に渡る。そのうち村野藤吾設計の「日生劇場の階段」、巨大ターミナルの構成を描いた「新宿駅」、そして地元の「熊本城」を壁面いっぱいに拡大プリントし掲示した。

「Hyper Sketch」とは、「写真あるいはCGなどの二次元媒体では表現することができない、手書きによるドローイング」のことを指している。「手書きであるからこそ可能な表現」とも換言することもできる。

それはカメラでは得ることができないようなアングルによる描写、コンピュータグラフィクスにおけるレンダリングでは難しい柔らかさやあたたかみの付与、静止画に時間軸を与える試行など、二次元表現に関する様々な可能性の模索とその成果ということができるだろう。

たとえば「新宿駅」は、複数の事業体（5社10路線の鉄道、バス、物販飲食店等）が絡み合い、折り重なり、日々拡張を続けるターミナルの立体構成図である。新宿駅には各社ごとの構内図はあるものの、実は統合図は存在していない。誰も全体像を把握できぬまま彷徨い続けている、アメーバ状の都市迷宮を可視化することが目的であるが、適所を「透過」させる技法



▲「日生劇場の階段」を用いた告知ポスター

を駆使し、立体的に錯綜する複雑性と、構成を理解させる明快性という、一見相反する機能の両立を目指している。

会期中は百数十名が鑑賞に訪れた。また熊本日日新聞の取材も受けた。



▲全ての壁面を活用した展示